

大地震の負傷者 迅速トリアージ

笠松町・松波病院で訓練

笠松町田代の松波総合病院は、大地震を想定したトリアージや救護などの実働訓練を行い、万が一に備えた。写真。

同病院は県から「地域災



害拠点病院」に指定されている。医師や職員ら約80人が参加。地震により、多数の負傷者が搬送されると想定で、松波和寿病院長が

災害対策本部長として指揮を執った。

医師らは負傷者の治療の優先順位を決めるトリアージを実施。重症、中等症、軽症の患者に分け、医師と看護師が応急治療に当たるとともに、負傷者の氏名と傷病、症状などをホワイトボードに書き込むなど、本番さながらに救護の連携を確認した。(長尾剛次)